

## 令和7年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(山北地区)

開催日時	令和7年10月21日(火)午後7時00分から午後9時05分
場所	生涯学習センター
町民参加者	16人
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼地域防災課長、福祉課長、商工観光課長、定住対策課長、会計課長、こども教育課長、生涯学習課長、事務局2人

### 意見交換の概要

#### <町からのテーマ 山北町・各地区の将来の姿について>

町長： 山北地区は山北駅があり、歴史ある文化財もあり町の誇りとなっているものが多い。町全体では、少子高齢化の進行が大きな課題となっており、第6次総合計画に基づき重点的に取り組んでいるところである。現在、転出者と転入者の数は同じくらいであるが、出生数と死亡数の差が約150人となっており、その分人口が減少している状況となっている。引き続き関係人口を増やす取り組みや、今後は地域おこし協力隊を活用するなどの取り組みなどを行っていききたい。山北町の強みは森林があることだと思っている。森林があるということは水が豊富で空気がきれいであるということなので、それらを生かしていききたいと考えている。本日の地域テーマにあるとおり、室生神社の流鏝馬や道祖神祭など他町に比べて歴史のある文化財が多くあるので町の活性化のために生かしていききたいと考えている。

[所管課：地域防災課]

昨年の座談会の際に防災・防犯に関する展示会の開催を提案したが、いまだに開催されていないがどうなっているのか。

地域防災課長： 昨年の総合防災訓練の際には備品の展示を行った。今年は展示会の開催はできなかったが、各地区からの要請に応じて町の防災官を地域の防災訓練に派遣し、防災講和などを実施させていただき際に防災グッズなどの紹介を行った。

参加者： 町の防災官から防災グッズの紹介は、値段や詳しい使用方法が説明され勉強になった。同じように防犯についても開催してもらえるとありがたい。

副町長： 展示会の開催については、来年度改めて検討させていただきたい。

人口減少が進む中で、町の財源の確保が重要になると思う。山北町から川崎市に水を供給していることから、川崎市に山北町をもっと意識させて、財源の確保のために川崎市と連携して何かしらの取り組みを行ってはどうか。

川崎市など都会に住んでいる人の中には山北町での田舎暮らしにあこがれている人もいると思う。現在、都会はマンション価格の高騰により生活コストも大きくなっている。そこで、現在行っている交流などを通じて、山北町をプロデュースし川崎市の人を呼び込むなどの取り組みを行っていくのはどうか。

町長： 川崎市とは水源交流をはじめ長年連携して様々な取り組みを実施している。現在検討している地域おこし協力隊については、神奈川県では山北町と清川村でしか活用することができない。国からの補助もあるので、ぜひ活用していきたいと考えている。この地域おこし協力隊は、横浜や川崎といった都会からきた人しか該当にならないことから、人材の確保など川崎市と連携してできないかと検討しているところである。ただし、事業を実施するうえで人口規模が大きく異なることが連携を進めるうえでの課題であると考えている。今後は川崎市との連携を深めていくことはもちろんだが、災害時相互応援協定を締結している自治体など複数の自治体とも連携を深めていきたい。

[所管課：企画総務課、保険健康課、農林課、商工観光課、都市整備課、会計課]

- ① JR 御殿場線沿いの桜の木が植えられている JR の敷地について、草が繁茂し虫が発生しているので生活環境の改善のためにも JR に草刈りを要望してもらいたい。
- ② 山北橋から商工会にかけての道路と田屋敷方面の道路が外側に傾いているように感じる
- ③ セラピーロードの草刈りの実施について、実施した業者に町から支払いを行う際に作業状況の写真などで確認を行っているのか。
- ④ 農道の管理を町で行うようお願いしたい。

商工観光課長： JR の敷地内の草刈りについては、御殿場線の運行に支障をきたさない箇所は町で草刈りを実施しても良いという回答があったので、つるがひどくなっている箇所については除草を実施しており、今後も取り組んでいきたい。JR にも草刈りの要望を引き続き行っていく。

会計課長： 草刈りなどを実施した際に業者に町から費用を支払う際には、業務完了後検査員が業務を適正に実施できたか写真等で確認を行っている。

副町長： いただいた意見など町の環境整備は重要だと考えている。詳細については、各窓口に問い合わせいただきたい。

[所管課：企画総務課、商工観光課]

JRの敷地内の桜の木については新たに植えることができないと聞いたが、桜の木は昭和25年頃に植えられたと記憶している。樹齢70年を経過し寿命が迫っておりこのままだと桜の名所がなくなってしまう。全国に桜の名所は多くあるが、桜の下を電車が走る名所は山北しかないと思っている。山北の桜を残すためにも、国に働きかけるとか、町が維持管理できるようにするとか、クラウドファンディングを活用して資金を集めるといった取り組みを行っていただきたい。

町長： JRの桜の件については、御殿場線沿線の市町で構成する御殿場線利活用推進協議会をとおして要望している。要望に対しては当初は聞き入れてもらえなかったが、最近は対応が柔軟になってきているので、引き続き要望をしていきたい。

[所管課：商工観光課]

人口減少が進む一方で、インバウンドにより収入が増えている地域もある。第6次総合計画でも関係人口の増加が目標の一つにあるが、町では観光客数などを把握しているのか。山北町のインバウンド、観光客数をどうやって増やしていくか町の考えを伺いたい。

商工観光課長： 町の入込観光客数は、最新の数字で年間166万7千人となっている。入込観光客数の数値については、丹沢湖などの観光地にポイントを設けて集計した数値などとなっており、令和6年度の神奈川県全体の入込観光客数は過去最大となっている。

町長： 周辺市町で構成する観光振興のための組織があり、山北町を含めた周辺地域にきていただくための様々な取り組みを行っているところである。このあとのテーマにある文化財なども活用して、関係人口を増やしていきたいと考えている。

## <地域テーマ 地域の文化財の保護について>

[所管課：生涯学習課]

地域の文化財は人がいないと存続していかない。山北地区で開催されている室生神社の流鏝馬や道祖神祭の花車の引き手など、地域のお祭りの担い手が不足してきており存続が危うくなっている。祭りには多くの方に見に来ていただいているので、その方を花車の引き手になってもらえるようにしてはどうか。道祖神祭の主催は連合自治会となっているので、実行委員会の主催にして、町の助力をもらえるようにしてはどうか。以上のことについて皆さんから意見を伺いたい。

参加者： 室生神社の流鏝馬や道祖神祭などについて町の支援をもらうには、政教分離の課題があるのではないかと。祭りを見に来た方が祭りに参加していただくには、何か見返りがないと難しいのではないかと。存続のために何が課題かという費用の問題があると思う。流鏝馬の際などには観客席を設けてお金をもらうとか、お土産などを販売して収入を得たり、道祖神祭の際にも見物客からお金をいただいたりといった取り組みを行い、参加者に日当を払うようにしてはどうか。

生涯学習課長： 室生神社の流鏝馬については、県指定無形民俗文化祭に登録されており県から

流鏝馬保存会に補助金が交付されている。金額は毎年異なるが概ね 100 万円程度となっている。道祖神祭については地域の祭りのため、町から助成金は交付していないが生涯学習活動事業助成金を各自治会に交付しており、それを道祖神祭の費用に充てている自治会もある。

参加者： 岸地区では、お祭りに企業も参加しているので資金があると聞いた。地区内の企業や商店などの活動を活性化させ、祭りに参加してもらうことも必要なのではないか。地域でお金が回る仕組みができれば、今後も地域の祭りが存続できるのではないか。

参加者： 道祖神祭の主な資金源は、住民からの寄附金、自治会費、企業からの協賛金、観光客からの寄附金、自治体からの補助金といった情報もある。町が道祖神祭を地域の文化的な財産、観光資源と判断したうえで補助金を出すといったことも可能ではないか。各庭の責任者を集めて実行委員会を設立し、事務局として町が関わるといった方法もあるのではないか。

## 〈テーマ その他〉

[所管課：地域防災課]

令和 8 年 4 月から自転車運転に関する交通違反の罰則が強化され、車両の一方通行や歩道の走行などについて取り締まりが厳しくなるが、他自治体の道路では、大きな橋の歩道や幅が広がっている歩道に自転車が通行できるという標示がされているのを見たことがある。山北町では、そういった標示のある歩道がないが川村小学校の下の県道などは歩道が広がっており、車道を走行するより歩道を走行した方が安全と思われる箇所もある。町で危険な箇所を把握し、自転車で走行すると危険と思われる道路を自転車が走行しないように、歩道を自転車が通れるよう対策をしてもらいたい。

地域防災課長： 自治会要望で山北駅前の道路の車両の一方通行となっている箇所から自転車を除けないかという要望をいただいております、警察と協議しているところである。自転車がとおれる歩道については、設置できる基準などを確認し、警察に確認させていただく。

[所管課：町民税務課、農林課]

第 6 次総合計画に「森林の保全と利活用が進み、山北らしい美しい森林が継承されている」とあるが、森林を所有していても伐採したり、植林したりするなどの費用がかかりよいことがない。このままでは森林が荒廃する一方である。森林を保有するとよいことがあるように町で考えてもらいたい。例えば山林にかかる相続税などを低くするために固定資産評価額を低く設定することはできないか。低く設定できれば、山林を所有することに対する負担感が軽減され、山林を所有していこう活用していこうという人が出てくるのではないか。

町長： 固定資産の評価額を下げるには国の承認が必要になる。評価額を下げると固定資産税が減収となり、国が山北町に支出する交付金が増えてしまうため認められない。

副町長： 森林の利活用については、森林環境譲与税などを活用して引き続き取り組んでいきたい。

[所管課：生涯学習課]

山北のお峰入りがテレビ放映されていたが、歴史などについて何も説明がされていなかったのが残念であった。町の文化遺産を地元以外の方に広く知っていただくためにも、内容の周知などをもっとしてもらいたい。

生涯学習課長： テレビ放映であったことから、歴史などの説明の部分が時間の都合などでカットされてしまったのかもしれない。令和5年度の記念公演の際などには多くの方に来ていただいた。引き続き工夫してPRをしていきたい。

町長： D52 フェスティバルの際に開催した鉄道遺産ツアーには多くの方に参加いただき、山北町の歴史について知りたいという方がたくさんいると感じた。二次元コードを使うなど様々な方法で周知していきたいと考えている。

[所管課：地域防災課]

町の広報について、決算に関する記事が掲載されていたが内容が難しくわからなかった。町民が興味をひくような記事、わかりやすい記事を掲載して欲しい。難しい漢字などもカナをふってもらいたい。

地域防災課長： 予算と決算は法律で公表が義務付けられている。町民の皆さんに読みやすい広報の作成に取り組んでいくので、気づいたことがあれば連絡をいただきたい。

[所管課：企画総務課]

丹沢湖から三方に抜ける道路について、相模原と道志方面に抜ける道路の建設が駄目になったと聞いている。そうすると山中湖方面に抜ける道しか残らないが現状どうなっているのか、考え方を伺いたい。先ほどあった森林の利活用を進めていくためにも道路の整備は有効と考えるがどうか。

町長： 相模原方面に抜ける道路を第一優先にして交渉を進めているところであるが、進んでいない状況である。現在は、災害時に孤立してしまう地区があることなどを鑑みると山北から一番近い松田方面に抜ける道路を考えていく必要があると感じている。道路の整備については、他県も関わる場合もあることから進めていくことは難しい。

副町長： 本日は様々な意見をいただき感謝申し上げます。いただいた意見を全て反映できる訳ではないが、意見をしっかりと受けとめ、検討したうえで町の施策に反映できるものは、反映していきたい。